

■ 太陽光発電の推進

当社発電所跡地等を活用したグループ会社によるメガソーラー開発に取り組んでいます。2015年4月には、九電みらいエナジー(株)が大村発電所跡地で建設を進めていた第3発電所の増設工事が完了し、発電所全体の出力は15,490kWとなりました。

WEB 太陽光発電については、太陽光発電の概要とあわせて、メガソーラー大牟田発電所の発電状況をリアルタイムで公開。詳細は九州電力ホームページ
関連・詳細情報(P2参照) > [リアルタイムデータ\(メガソーラー大牟田発電所\)](#)



佐世保メガソーラー発電所(グループ会社の九電みらいエナジー(株))

太陽光発電設備とCO₂排出抑制量(2014年)

単位: kW

発電所	既 設 (約42,000)					計 画 (約5,800)	
	メガソーラー大牟田(福岡県)	大村メガソーラー ^{※1} (長崎県)	佐世保メガソーラー ^{※1} (長崎県)	事業所等への設置	その他メガソーラー ^{※1}	事業所等への設置	その他メガソーラー ^{※1}
出力	3,000	15,490	10,000	約2,700	約11,200	約1,800	約3,990
2014年度CO ₂ 排出抑制効果 ^{※2}	2,100トン	10,700トン	7,700トン	-	7,300トン	(2015年5月末現在)	

※1: グループ会社による開発。

※2: 2014年度の販売電力量あたりのCO₂排出量(調整後)を使用して試算。

【参考】100万kWあたりの太陽光・風力発電によるCO₂排出抑制効果について

太陽光・風力発電(100万kW)あたりのCO₂排出抑制効果量は、当社の全電源平均と比較した場合で試算すると、1年あたり、太陽光発電では約65万t-CO₂(設備利用率12%の場合)、風力発電では約135万t-CO₂(設備利用率25%の場合)です。

これに対して、原子力発電(100万kW)のCO₂排出抑制効果量は、1年あたり、約380万t-CO₂(設備利用率70%の場合)となります。

また、太陽光や風力発電はエネルギー密度が低いため、大量導入には広大な敷地面積が必要となります。

<原子力・太陽光・風力発電によるCO₂排出抑制効果と敷地面積の比較(100万kW相当)>

	原子力発電	太陽光発電	風力発電
CO ₂ 排出抑制効果	約380万トン-CO ₂	約65万トン-CO ₂ →原子力発電の約1/6	約135万トン-CO ₂ →原子力発電の約1/3
敷地面積	0.6km ² →福岡ヤフオクドーム約10個分	約58km ² →原子力発電の約97倍 →福岡ヤフオクドーム約840個分	約214km ² →原子力発電の約350倍 →福岡ヤフオクドーム約3,100個分

出典: 敷地面積については、電気事業における環境行動計画2014年度版より抜粋

用語集をご覧ください

>>メガソーラー
>>CO₂排出クレジット

>>利用率